

はんどちゃんネットワーク運動 地域福祉活動レポート

利根町布川

[平成25年5月13日取材]

利根ニュータウン たまり場 そよかぜ



右から代表の荒木さん、時枝さん、高木さん

坂東太郎の 異名根川」を 挟んで、接手の 県に隣海の郡田 県境の郡田 町。今圏のベと ドタウンとし

て80年代に

開発が進んだ住宅団地のひとつである利根ニュータウンで、新たな取り組みにチャレンジ真っ最中という、たまり場「そよかぜ」にお邪魔してきました。このたまり場「そよかぜ」は、かつてのベッドタウン共通の課題でもある地域の空洞化、地区住民の高齢化などの問題に危機感を抱いた代表の荒木昭江さんらが一念発起。子育て世代から高齢者まで多世代間の交流などを図り、だれもが気軽に足を運べる拠点をベースに、希薄になりつつある地域住民の活性化を促そうと 2011 年 6 月にオープンした比較的新しいサロンです。

その活動の拠点となるのが団地のほぼ中心に位置する一軒家の住宅。町から無償で借用し、住民に対しフリースペースとして貸出しているほか高齢者の食事会やリハビリ体操、赤ちゃんとお母さんのサロンとしても活用されています。訪問したこの日も高齢者を対象としたシルバーリハビリ体操が行われていました。経験豊かな体操



楽しいシルバーリハビリ体操

元気な歓声が響いていました。「団地の集会所が震災で壊れてしまったため、その代役としても重宝されています」と語る代表の荒木さん。活動の核として欠かせない役割を担っています。

まだ活動を始めてから日が浅いため、特に若い世代や 男性の参加が少ないと言った課題があるとおっしゃって いました。



んでやれること クリスマスの子育てサロン

が大事です。今後は、既に取り組んでいる「カフェそよかぜ」や朗読会ももっと賑やかにしたいですし、とれたて野菜などの朝市や困りごと協力組織などと言った活動にも幅を広げたいですね」と笑って話す荒木さん。

明るくポジティブに取り組む荒木さんを始めとするスタッフの笑顔は、この利根ニュータウンたまり場そよかぜに爽快な風をもたらし続けてくれることでしょう。





野菜の無料配布も行われています 鮮やかなお花に囲まれた環境

いばらきの社会福祉

Social Welfare of Ibaraki

発行者/社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会 〒310-8586 水戸市千波町1918

> 電話 029(241)1133(代) FAX 029(241)1434

http://www.ibaraki-welfare.or.jp/ E-mail ibashakyo@ibaraki-welfare.or.jp



携帯電話で読み取るだけで簡単に「茨城県社協 HP」にアクセスできます。

